

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風 すみれ		
所在地	京都府京都市中京区壬生天池町24		
自己評価作成日	平成22年3月6日	評価結果市町村受理日	平成22年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690300021&amp;SCD=320">http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690300021&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年4月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者さまが笑顔になるためには、まずスタッフが笑顔でなければならない。より良いサービスのために、スタッフ同士の良好な関係作りにつとめています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢社会で果たす役割りを自覚し、明るく元気で健やかなヒューマンライフを支えると謳われている法人理念に添って利用者支援を展開しています。京都の市街地にあり、一階がデイサービスとなっています。お話ボランティアの訪問や、小学校から課外授業として定期的な訪問があり、利用者の喜びとなっています。ホームでは廃油の回収に協力したり、ホーム行事である祭りや開所イベントに地域の方々を招くなど双方向の交流が着々と積み重ねられています。運営推進会議では、入居状況や行事、事故やヒヤリハット、ボランティア行事、行政の取り組みや地域行事等詳細な項目に沿って報告され、少人数ながら深い議論、検討がなされ運営に反映されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そよ風の理念を毎朝、朝礼時に唱和し確認しあい日々心がけるようにしている	法人理念で高齢社会で果たす役割を自覚し、明るく元気で健やかなヒューマンライフを支えると謳い、掲示するとともに唱和する事で日々確認している。	ホーム独自の理念を職員間で話し合い作られ、日々の指針とされては如何でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々地域の方と会う時はあいさつするように心がけている。また、週に2回ボランティアに来ていただき交流している	自治会に加入し情報を得ており、地域の運動会の見学や廃油回収の協力が行われている。小学校の課外授業を受け入れ、定期的な子どもたちの訪問は利用者の楽しみとなっている。ホームでは夏祭りや開所記念日のイベントには地域にピラを配り招待するなど交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	アニバーサリーに地域の方に来ていただけるよう施設を開放している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行っている。	二ヶ月に一度、家族や連合会々長や地域包括支援センター職員などが参加し運営推進会議が行われている。ホームの状況や行事、ヒヤリハット、ボランティア行事など詳細な項目に沿った報告を基に活発な議論がなされた結果、地域や家族に向けた認知症研修の企画に繋がったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導などで取り組んでいる	行政には運営推進会議の報告と共に広報誌を持参し、事業所の様子を伝えている。分らない事や疑問は電話などで連絡する事もあり、何かあれば気軽に相談できる体制にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会の設置している	身体拘束をしない事を明記し、玄関や出入口に掲示し宣言している。法人における身体拘束・虐待防止委員会に参加したり、ホーム内研修も行い職員の理解を深めている。玄関の施錠は行われておらず、出かけたそうな方がいれば同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回の委員会活動と、職員研修を実施		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に必要な方には後見人制度を知らせしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をかけて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスやフロア会議で話し合っている	家族の面会時には出来るだけ意見を聞くようにしており、出された意見によっては職員会議などで話し合っている。また、運営推進会議でも報告し意見を募り運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議を設けている	月々の会議で、意見や提案を出し合う機会があり、管理者は個別に話を聞くこともある。施設長面談が年2回あり職員の意向や仕事への思いなど聞き、把握したことを法人の会議で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取り組み中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で研修時間を設け、職員のスキルアップに取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会やグループホーム協議会などを通じて交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や要望を傾聴しその都度対応策を話し合いケアにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、不安や要望などを伺うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗たくや料理を一緒にすることで共に生活するということで接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、不安や要望などを傾聴するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の人や場所をお聞きし良くその話をします。	近所の方の来訪があったり、散歩がてら元の住まいの近くに出かけたりしている。また買い物時も昔馴染みの商店街に出かけるなど、思い出の場所へ出かけるように心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を考慮しています。		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年次年時のあいさつや時々の便りの送付などで行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さま本位に努めている	利用者や家族の希望を出来るだけ聞くようにしている。センター方式を利用し、家族にも記入をお願いしたり、多くの情報の収集に努め、意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アンケートや生活歴の作成活用しながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの本人の要望やご家族様からの要望を聞き取り介護計画に反映するようにしている	3ヶ月毎にカンファレンスを行い評価見直しを行っている。状況によっては事前に医師の意見を聞き反映するようにしている。家族にはプランが作成された時点で意見を聞き同意を得ている。	プランの見直しに向けて、家族のカンファレンスへの参加やより充実したプランを作成するために要望を聞くなどされては如何でしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に作成しスタッフの情報交換に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるように努力している		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期往診(2週間に1回)、体調不良時には協力医療機関に連絡したり受診を行っている	以前のかかりつけ医からの情報や家族から往診結果の情報をえて、協力医療機関への対応を行っている。緊急時には電話などでかかりつけ医に連絡を取り、あるいは併設のデイサービスの看護師の意見を聞くなどして対応している。協力医の来訪は2週間に1度ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行って		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いを設ける場がもっと必要である。	契約時にはホームの姿勢を伝え、入退院時には医師や家族と今後に向けた対応を話合っている。法人内の他の施設での経験のノウハウを共有し職員間で話し合う機会を持っている。状況の変化の中で更に話し合いを持つ必要性を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に(年2回)行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を行っている	昼夜を想定した避難訓練を行っている。併設のデイサービスと合同では昼間の想定、ホーム独自では夜間想定で行っている。運営推進会議でも声かけを行い、地域の協力を得られるよう働きかけている。	

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉かけやプライバシーの保護について意識している	新人研修などではプライバシーについて話し合い、具体的な理解に繋げ意識を高めている。出来るだけ丁寧な声かけを行うようにしており、職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話や傾聴し、その意思を尊重できるように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じた理美容や毛染めの支援を実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、食器洗い・食器拭きを日常的に行っている また、外食などにも出かけている	法人の献立を基に食材が届き、職員が中心になって作っている。レクリエーションや外出時などは利用者の希望に合わせて料理と一緒に作る事もある。毎月外食を楽しめるようにしており、個別の要望に応じて出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握・記入を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕声掛け介助にて出て行っている また、週1回歯科往診で口腔ケアもしている		

京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時トイレ誘導や声掛けをしている	利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけを行っている。使用するリハビリパンツやシートの使用を減らすように心がけ、排せつの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や屋内外の散歩の実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴はできていないがご本人の希望を優先してしている	午後から夕方までが基本的な入浴時間になっており、希望によっては毎日の入浴の支援が可能である。拒否傾向のある方には時間や声かけに工夫をし入浴の支援を行っている。時にはデイの風呂で温泉気分で何人かの入浴を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の性格を考慮し役割楽しみを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩2か月に1回程度ドライブ・外食を行っている	天気の良い日にはなるべく散歩に出かけている。近所の藤棚や桜を見に行き、足を延ばして上賀茂神社や祇園祭を楽しんだりしている。また遠出をする際の企画を立てて利用者全員で出かけたりしている。日々の外出は利用者の好みや要望で、おやつや買い物や喫茶店、美容院への同行などが行われている。	



京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣への買い物は職員と一緒に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を繋いだり、お手紙が届いたらお渡ししたりと支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように配慮している	ホームのフロアは、東西のユニットに分かれている。その間はソファやテーブルがある小さな応接空間で、利用者がひと息ついたり家族との団らんの場になったり、ユニット間の交流の場となったりしている。花を絶やさないように心がけており、熱帯魚が利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士になるよう考慮し席を決めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている	クローゼットとカウンター机が設置されている。ぬいぐるみや写真など身近なものを飾られており、自宅から筆筒や仏壇を持参され、居心地の良い我が家になるよう努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ身の回りのことやできることは自分の力でやっていただけるよう支援している		